

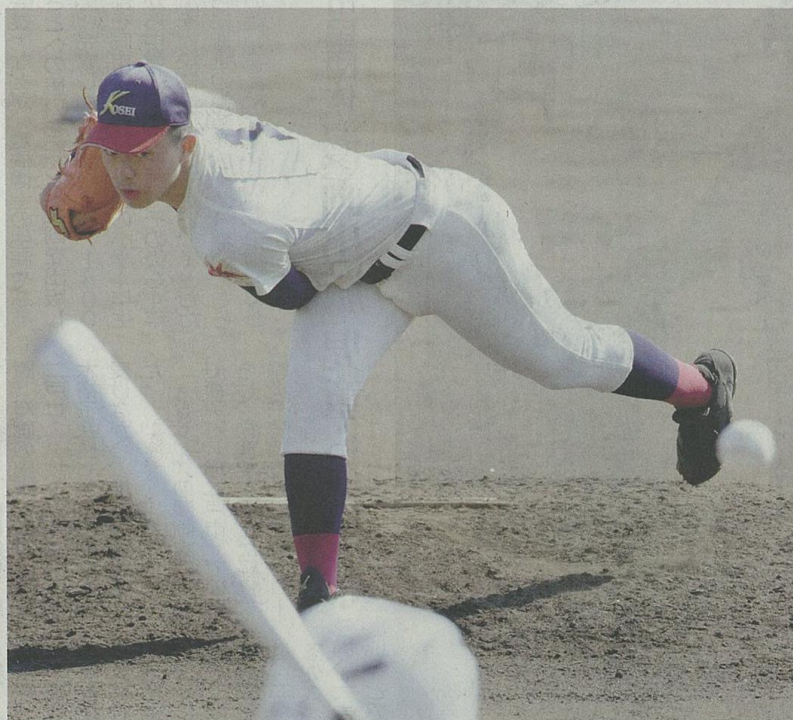
## 第69回 高校野球 秋季東北大会

▷第2日

第69回秋季東北地区高校野球大会第2日は15日、山形県の天童市スポーツセンター野球場と荘銀・日新スタジアムで2回戦6試合を行った。青森県勢は、第2代表の八学光星が不來方（宮手第2）を7-0で下し8強入り。第1代表の青森山田は酒田南（山形第2）に1-5で、第3代表の弘前東は横手（秋田第1）に2-4でそれぞれ敗れ、姿を消した。第3日の16日は両球場で準々決勝を実施する。光星は仙台育英（宮城第1）と対戦する。

（林泰輔、竹高雅人）

# 光星完封8強



不來方八学光星 散発4安打、13三振を奪い完封した光星の向井詩恩  
——天童市スポーツセンター野球場

### 2回戦

不來方（宮手）  
△光星 10 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 2  
▽小比類巻 1 菊池康  
△向井 1 齊藤  
▽三塁打 菅原 △吉田

【評】光星は初回、馬場、三枝が連打で出塁。1死後に小池が四球を選び、満塁から花房の左犠飛で先制した。二回は2死一塁で馬場が左前打を放ち追加点挙げた。先発向井は威力のある直球を主体に13奪三振。散発4安打に抑え、三塁を踏ませなかった。たたきつけること意識  
光星・馬場文治（3安打1打点）県大会ではフライが多かったので、コーチの助言通りにたたきつけることだけを意識した

## 向井13K、無四球に手応え

光星の主戦向井詩恩は、散発4安打に抑えて完封勝利。威力ある直球を主体に13三振を奪い、三塁を踏ませぬ力投で流れを渡さなかった。高校入学後初めての完封だったが、自身が一番手応えを感じたのは無四球だったことだ。「制球に自信がなかったが、きょうはストライク先行でテンポ良かった」と充実感をにじませた。

初回、先頭打者にいきなり3ボールとカウントを悪くしたが、直球でストライクを一つ取って落ち着きを取り戻した。「6～7割の力で制球を重視した」。最速141kmの直球を130km台中盤に抑えて丁寧にストライクゾーンへ投げ込むと、相手打者は高めボール球やチェンジアップにも手を出し、何度

もバットが空を切った。打線の援護は序盤の2点にとどまり、走者が出ると緊迫感が増したが、「走者に目線を送ってけん制し、自分のペースで投げられた」と動じなかった。終盤、握力が落ちたが、最終回は「思い切り腕を振ってみろ」との仲井宗基監督のげきに応え、140km台の直球を連発。3人で締めた。「県大会では制球の甘さが出て、チームの期待を裏切っていた」（向井）。フォームの修正に励んだ成果を大事な初戦で発揮した。背番号1は「次もストライク先行で、攻撃に勢いを与えるようなリズムのいい投球をしたい」と意気込んだ。  
（林泰輔）



【不來方】	打安振球	【光星】	打安振球
⑥ 菊池康	4 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	⑤ 馬三尾	4 3 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0
④ 菅原	4 4 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	④ 池田	4 4 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0
③ 齊藤	4 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	③ 花房	4 4 2 0 1 0 0 0 0 0 0 0
② 小池	3 3 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0	② 中手	4 4 3 3 3 0 0 0 0 0 0 0
① 向井	3 3 3 1 1 0 1 0 2 0 0 0	① 向井	4 4 3 3 3 1 0 1 0 0 0 0
投手	0 1 0 0 4 3 1 0 1 3 0	投手	0 1 0 0 4 3 1 0 1 3 0
捕手	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	捕手	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
一塁	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	一塁	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
二塁	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	二塁	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
三塁	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	三塁	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
遊撃	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	遊撃	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
外野	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	外野	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
合計	2 2 0 0 9 3 1 9 2 5 2	合計	2 2 0 0 9 3 1 9 2 5 2
投手	8 3 5 9 5 2 2	投手	8 3 5 9 5 2 2
小比類巻	8 3 5 9 5 2 2	小比類巻	8 3 5 9 5 2 2
向井	9 3 1 4 1 3 0 0	向井	9 3 1 4 1 3 0 0